

## 急ピッチで進む社会保障 I Cカードの導入議論

本年7月の政府与党合意を契機に、社会保障 I Cカードの 2011 年導入に向けた検討が急ピッチで進んでいる。9月末に招集された有識者会議では、年金、医療、介護、雇用の4制度の被保険者証を1枚の I Cカードに統一することで基本合意したという。2回程度の議論と関係者ヒアリングを行った上で、年内には基本構想をまとめる予定になっている。

そもそも社会保障カードの議論は、健康情報を集約する健康 I Tカードや社会保障番号の議論に端を発している。それが、年金記録問題への対応策としてにわかに注目され、年金や医療などが相乗りする形で導入の動きが急加速している。

カード自体に情報を搭載しない昨今の I T事情を考えれば、国民の目につきやすいカード導入よりも、目に見えにくいデータベースの整備こそが重要な問題ではないだろうか。また、各制度の情報を一体化する意義や、4制度に限定する意義はあるのだろうか。

カード化による国民のメリット・デメリットや、情報を一体化する意義、データベースの整備、住民基本台帳カード等との関係などについて、性急でなくより深い議論が必要ではなかろうか。

### 《目次》

- ・ (信用リスク)：サブプライムローン問題と証券化市場
- ・ (年金運用)：年金保護法と財務会計基準 158 号後の米国企業年金の動向 (2)
- ・ (年金運用)：専門家に聞く (2) -GTAA 運用の最近の動向